

市費スクールカウンセラーの活用状況について

①配置について

原則、月に1回配置（保護者の要請、希望により学校間で日程調整し対応可能）

スクール カウンセラー	① 昨年度までの 配置校	② ①に加え、 令和2年度の新たな配置校	担当校数
渡邊SC	市教委、花園小、 山の手小、奥沢小	張碓小、桂岡小、銭函小	市教委 +6校
佐々木SC	稲穂小、長橋小、 手宮中央小	忍路中央小、塩谷小、 高島小、幸小	7校
嶋崎SC		潮見台小、桜小、 望洋台小、朝里小	4校

②令和2年4～9月の相談状況について

回数 内訳	小学生	104回	保護者	50回	教職員	143回	計	297回
----------	-----	------	-----	-----	-----	------	---	------

<4～9月の相談状況のうち、新たに配置した学校における相談件数>

回数 内訳	小学生	73回	保護者	3回	教職員	98回	計	174回
----------	-----	-----	-----	----	-----	-----	---	------

- 相談内容
- 保護者や教職員による不登校及び不登校傾向にある児童の相談
 - 児童からの友人関係の悩み、家庭環境や担任に関する相談
 - 保護者からの進路相談
 - 保護者からの発達障害に関わる相談

③学校からの感想・声

<子どもの様子>

- 休み時間に児童との交流が多く見られ、SCとの交流を重ねる中で、子どもが素直に自分の悩み等を打ち明ける場面が見られ、不安の解消につながっている。
- 月に1度の来校のため、交流できる児童数に限度があり、来校回数が増えれば、さらに充実していく。

<保護者の様子>

- 子どもの相談だけでなく、保護者自身の悩み等も打ち明けることができ、面談後はとても晴れやかな表情で帰っていく様子が見られ、安心感につながっている。（同じ保護者が複数回活用している）
- 月に1回の来校により、保護者からは面談の要望があるものの、保護者との日程調整が困難なケースも見られ、来校回数が増えれば、保護者との日程調整がしやすくなるとともに、早い段階でカウンセリングが必要なケースに対してスピード感をもって日程調整し、対応できる。

<教職員の様子>

- 子どもたちや保護者からSCが得た情報を学校と共有でき、その後の指導・支援に生かすことができている。
- 保護者が来校できない場合、担任等が保護者に代わってSCに相談し、その助言等を保護者に伝えることにより、保護者の不安を軽減することができている。
- 担任が保護者から回答が困難な相談を受けた場合、SCに相談し、保護者によりよい助言をすることができている。
- 第三者（専門家）の相談者が身近にいることで、教職員に安心感を与えている。
- 来校回数が増えれば、教職員との情報共有や相談する機会が増え、さらに活用しやすくなる。

<SCの活用により不登校及び不登校傾向が解消した児童の事例>

- 当該児童は母親からの愛情不足のため、登校を渋りがちになった。SCは、本人だけでなく、母親ともカウンセリングを複数回行い、SCから母親に対して、下の子だけでなく、当該児童に対しても話を聞いたり、甘えさせてあげてほしいと伝え続けた。母親は、SCからの助言をもとに、当該児童との会話を大切にし、一緒に料理をしたりするなど、関わる時間を増やしたところ、当該児童は学校へ復帰することができた。